

題: ネットの拡大と新聞の役割

名前:

現代のインターネットの普及率は大幅な伸びである。テレビが一家に一台という時代に変わってパソコンが一家に一台という時代になってきていることが実感できる。またパソコンがなくても携帯電話があり、二人も一人一台というながりようなものでもはや誰でもインターネットに接続し、手軽に情報を手に入れられるようになったと言える。そんな時代背景の中で、新聞や雑誌の意味が問われてきていることはある意味当然であると感じる。わが国は毎月の契約料を払って新聞をというなくてもネットにアクセスすればそのニュースを見ることができると言える。しかもネットのニュースは最新の出来事が常に掲載されているのでリアルタイムに世の中の動きを見ることが出来る。さらに新聞はいろいろな紙種はいつても何枚も重なっているのかとぼろしなげさな場所をそこそこも難点である。ネットならその情報を得た後、すぐに他の関連事項にアクセスできるなどといったサービスも付随して

る上に量が多くなっても本体はパソコン(あるいは携帯)なので重たいページを何枚も持ち歩くとして不便に思うことはない。このように手軽さやスピード感で見ればネットの方が利点は数多く見られるが、しかしだからといって新聞や雑誌が不要になるというのはいさぎ悪いと思う。

新聞にはスピード感がない代わりに公的な信用性というものが備わっていると考えられる。もちろん新聞社は企業であり利益追求やその社のスタンスによって記事の書き方や社説などに違いは出てくるであろう。しかしそれでもある一定の中立性や事実を正しく伝えるという面では新聞以上に信頼性を担って来たものはないと思う。限りのある紙面の中で最も重要だと思えることを一面に、そしてジャンルごとに様々なニュースをまとめて伝えることで主たる新聞と読者の興味を追求しある時は不正を暴く働きもする雑誌はネットによって衰退はしても消滅することはないだろう。

1800字